

社会基盤となった ICTとAIの今と将来

公益社団法人日本工学アカデミー九州支部では、次世代を担う優秀な若きエンジニアの育成に貢献すべく、毎年、九州沖縄地区の高校や高等専門学校の生徒・学生の皆さんを対象とした出張講演会を実施しています。今回は、熊本高等専門学校八代キャンパスにおきまして、標記テーマのもとに、私達の日常生活をおくる上でもはや欠くべからざる社会基盤となっているデジタル技術に関して、ICTシステム開発の本質および教育を支えるAIに焦点をあてて、講演会を開催いたします。

～プログラム～

◆ 15:50～15:55
開会挨拶

熊本高等専門学校長 **荒木 啓二郎 氏**
(日本工学アカデミー九州支部理事)

◆ 15:55～16:10
主催者挨拶

独立行政法人国立高等専門学校機構理事長 **谷口 功 氏**
(日本工学アカデミー監事)

◆ 16:10～16:50
講演 (1)

「モノづくりとコトづくりの記述とプロセス」
福岡大学工学部電子情報工学科 教授 **中西 恒夫 氏**

◆ 16:50～17:30
講演 (2)

「教育のデジタル化を支えるAI技術」
九州大学大学院システム情報科学研究院 教授 **島田 敬士 氏**

◆ 17:30～17:35
閉会挨拶

大分工業高等専門学校長 **日野 伸一 氏**
(日本工学アカデミー九州支部副支部長)

日時

令和 3年 1月 19日 (火) 15:50 ~ 17:35

会場

熊本高等専門学校八代キャンパス 1階合同講義室

対象

1年生 (120名) 【校内オンライン配信有】

主催：公益社団法人日本工学アカデミー九州支部
後援：独立行政法人国立高等専門学校機構
九州工学教育協会

～講演要旨～

講演（1）「モノづくりとコトづくりの記述とプロセス」

【講師】福岡大学工学部電子情報工学科 教授 中西 恒夫 氏

かつて全ての自動化機械は機械的でしたが、19世紀には電気が、20世紀後半にはソフトウェアが制御に用いられるようになり、いまやあらゆる身のまわりの機械装置が「ソフトウェア製品」となっています。メカ、エレキ、ソフトと異なるフィールドの技術者が、目に見えないソフトウェア、さらにはモノができるまでの技術的思考について意思疎通するためには「コトの記述」とそのプロセスが重要です。本講演では、開発現場における無形のモノ・コトの記述とその方法論について俯瞰的に論じます。

講演（2）「教育のデジタル化を支えるAI技術」

【講師】九州大学大学院システム情報科学研究院 教授 島田 敬士 氏

近年、教育のデジタル化というキーワードが社会に浸透しつつあります。おそらく多くの方は、インターネット環境を利用したオンライン教育や紙ベースの教科書をデジタル化してPCやタブレット端末、スマートフォンなどで教科書を読む世界を想像されると思いますが、実はその裏方として仕事をするAIの存在はあまり知られていません。本講演では、教育のデジタル化を支えるAI技術とAI技術によって変わる今後の教育の将来ビジョンについてご紹介します。



旧郡築新地甲号樋門